

【巻頭言】

日本ケベック学会（AJEQ）設立 10 周年を記念して

立花 英裕

明治大学の小畑精和教授から、「ケベック学会を作るので、発起人になってくれないか」と声をかけられてから、10 年が経ちます。学会の設立大会は 2008 年 10 月 4 日でした。当時、私はケベックについては、ジェラルド・ブシャールを訳したことはあっても、恥ずかしながら無知に近い状態でした。ただ、フランス語圏全般に関心があったので、小畑さんの懇誘を受け入れたのです。彼が断固たる意志で大会を準備し、当日を迎えた日のことが今でも鮮やかに甦ってきます。小畑精和教授は、日本ケベック学会の顔であり、彼の存在はあまりに大きく、学会を彼と切り離すことはできませんでした。

AJEQ 設立 10 周年を語るにあたってもう一つ、個人的に忘れられないことがあります。彼に誘われてエクス・アン・プロヴァンスでの CIEF 世界大会に参加した折りのことです。彼は、医学検査があると言い残して、大会の閉幕を待たず慌ただしく帰国しました。まもなく、彼が病におかされていることが伝わってきました。それから 2 年間くらいは学会が一番大きな困難に直面した時期でした。まもなく私が会長代理を務めることになりました。2012 年度からは立教大学の小倉和子教授が会長に選出されました。そして、2016 年度から私が会長を務めることになったのです。

幾分、私的な感情も含めて、故小畑精和教授のことを書きましたが、ケベック学会の 10 年を振り返るとき、彼のことに触れないわけにいきません。

日本ケベック学会の取り囲む状況を見渡すと、この 10 年の変化に隔世の思いが先立ちます。もっとも、日本ケベック学会が確実に進歩・発展してきたことは、ある程度誇っていいのではないのでしょうか。現在、会員数は 110 名に近く、海外にも数名とはいえ会員がいます。たとえば、ジェラルド・ブシャール教授が AJEQ の名誉会員です。本学会が海外と広く交流していることも誇っていいでしょう。AJEQ との関係も年々緊密になってきています。

学会会員の活動も目ざましいものがあり、複数の学会員が参加した主な刊行物だけでも、小畑精和教授と竹中豊教授の共編による『ケベックを知るための 54 章』、小畑教授を中心とした日本ケベック学会日ケ交流 40 周年記念事業編集委員会による『遠くて近いケベック』があります。今回、学会 10 周年を記念して、小倉和子教授を中心に、この 10 年間における本学会員の研究業績をまとめた詳細な書誌が製作され、インターネットにアップされます。これによって、学会員の研究業績の豊かな広がりや厚みにアクセスできるようになります。

最後に一言。こうした学会研究活動を支えてきたのが、本学会誌です。今後とも会員の積極的な寄稿をお願いする次第です。

日本ケベック学会会長

